

なんでやねん

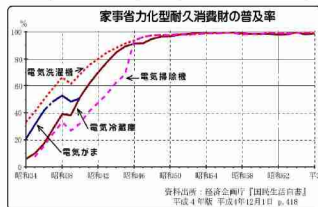
発行責任者 きつ 忠

No. 3 7

データから高度経済成長の特徴を読み取ろう(GLTの課題)

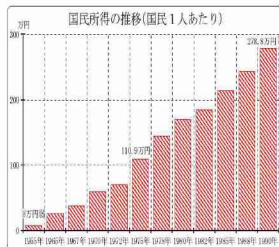
Q 年度によって、順位に変化がある。いつ、どんな業種がおとろえ、どんな業種が栄えるようになったのだろうか？ 変化は、いつおきていたのだろうか？

日本の会社ベストテン				
年	順位	社名	業種	売上高(億円) 純益(億円)
1950年 (昭和25年)	1	東洋紡績	繊維	414 1
	2	八幡製鉄	鉄鋼	362 18
	3	富士製鉄	鉄鋼	276 12
	4	鐘淵紡績	繊維	238 8
	5	三井鉱山	鉱業	228 1
	6	日本鋼管	鉄鋼	228 3
	7	大日本紡績	繊維	214 14
	8	三菱鉱業	鉱業	213 -5
	9	呉羽紡績	繊維	158 18
	10	川崎製鉄	鉄鋼	155 11
1960年 (昭和35年)	1	日立製作所	電機	2,058 91
	2	八幡製鉄	鉄鋼	2,044 172
	3	東京芝浦電機	電機	1,507 77
	4	富士製鉄	鉄鋼	1,488 145
	5	日本鋼管	鉄鋼	1,161 87
	6	日本石油	石油	1,077 29
	7	松下電器産業	電機	1,055 57
	8	トヨタ自動車工業	輸送機器	1,027 79
	9	新三菱重工業	輸送機器	1,022 37
	10	三菱電機	電機	1,018 49
1972 (昭和47年)	1	新日本製鉄	鉄鋼	12,378 146
	2	トヨタ自動車	自動車	11,261 570
	3	日産自動車	自動車	10,920 411
	4	松下電器産業	電機	8,543 464
	5	日立製作所	電機	8,169 233
	6	三菱重工業	造船	7,315 142
	7	日本鋼管	鉄鋼	6,435 77
	8	東京芝浦電機	電機	6,092 91
	9	日本石油	石油	5,381 57
	10	住友金属鉱業	鉄鋼	4,469 50



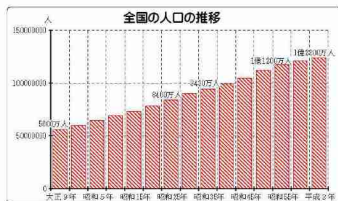
(資料出所) 中村政則「1950～60年代の日本 ― 高度経済成長 ―」『日本通史』第20巻 現代1 岩波書店
1995年7月 p. 43.

Q 国民所得はいつごろに増えたのか？



Q 耐久消費財が急激に売れたのはいつ頃？

Q 耐久消費財が庶民の生活をどのように変えたのだろうか？

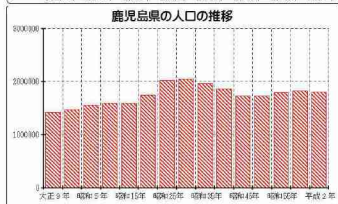


Q 人口数は、どのように変化してきたのだろう？

全国の傾向と

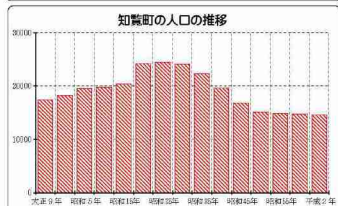
鹿児島県・知覧町、尼崎市、大阪
市で比べてみよう。

①全国的傾向は



全国と比べて

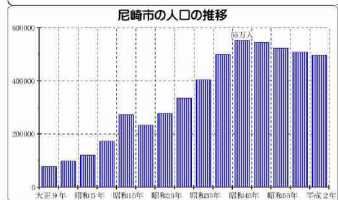
②鹿児島県や知覧町は



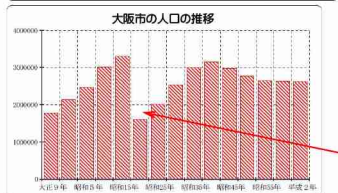
全国と比べて

③尼崎市は

知覧町と比べて



④なぜ、全国と鹿児島県の人口の推移の傾向が違うのだろうか。その原因を考えてみよう。



⑤なぜ、全国と尼崎市や大阪市推移の傾向が違うのだろう。その原因を考えてみよう。

※ 資料出所：人口統計は、国勢調査のデータを利用した。

※付録 昭和20年の大阪市の人口が、
なぜ少ないのだろう？